

実感やこだわりのある社会科学習の支援

1 研究課題

子どもたちは、自分なりのこだわり、実感、納得を大切にしているのだろうか。今子どもたちは、社会的な事象を自分とのかかわりとして見ることができずに、流行や他者の意見へ追従してしまう傾向にあるようだ。

まるで、「価値あるものに気づく感覚」が、麻痺してしまい、「価値あるものを求める感情」が衰退しつつあるとも言える。社会的事象を見ても何も感じない。感じないから何も考えられない。考えられないから共感的な行動がとれないなど、まさに感じ取る力、考え抜く力、協同して実践する力が奪われつつあるという悪循環が繰り返されているのではないだろうか。

これらから脱却するために、教師は子どもたちのこだわりや実感を大切にしながら、子どもたちが人間の営みに共感し、知恵を学び取り、自分とのかかわりとして主体的に社会に働きかけることのできるように支援することが大切であろう。仮説に基づいた授業実践を分析し、支援のあり方を模索する。

— 研究仮説 —

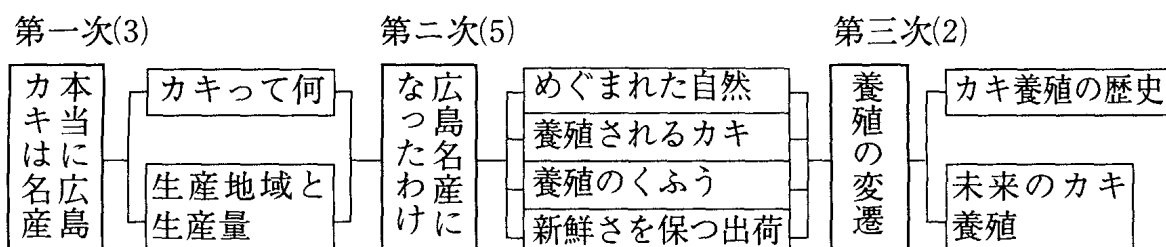
①人間の営みが具体的に見える地域教材を開発し、②その子なりのイメージをもとにめあて解決への見通しのもてる調べ問題作りの場③体験的な活動の場を設定するならば、児童は人間の営みのすばらしさや知恵を感じ取り、自分とのかかわりで主体的に社会に働きかけることができるであろう。

2 実践事例 第3学年単元「広島かきとわたしたちの暮らし」の実践

(1) 指導目標

自分とのかかわりで情報を効果的に活用しながら、カキの生産量や養殖方法・販売方法などを調べることを通して、自然環境を生かし、他地域と結び付きながらカキ養殖が行われていることに気づくことができる。

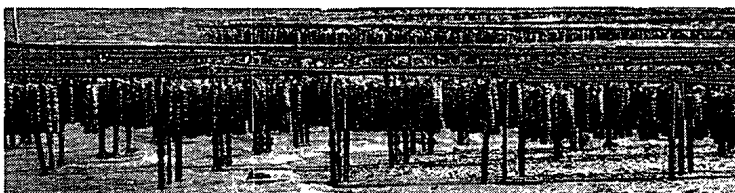
(2) 指導内容と計画 ……………10時間



(3) 人間の営み（生きざま）が具体的に見える地域教材の開発

① 広島カキの教材としての魅力

広島のカキ養殖は、全国一の生産額を誇り、広島の主要な生産活動の一つである。広島カキは、太田川と広島湾という恵まれた自然環境と伝統的な養殖技術に育まれながら、養殖材料の入手やカキ販売の面で他地域と密接に結びついている。カキ養殖には、採苗（種付け）・抑制（強いカキの育成）・本垂下（身入り）・収穫・カキうちの作業過程がある。これらの作業場所は、カキの産卵に適している所、干潟のある所、フジツボやムラサキイガイなどの外敵の少ない所・カキのえさであるプランクトンの多い所、収穫に便利な所というようにそれぞれ異なっている。カキを移動する養殖方法こそ、埋め立て等の自然環境の悪化に立ち向かった養殖業者の願いと知恵の結実であり、地域間の連携を不可欠とする。また、第4学年単元「宇品港と千田貞暁知事」で、宇品築港のために遠浅の干潟でカキ養殖をしていた人々の海外移民を加味しながら学習する。広島カキは郷土の学習にとって意義深い教材であると考える。



② 具体的な人間の営み（生きざま）の見える学習資料の作成

猿猴川の下流でカキを養殖している業者が、いつ・どこで・何を・どうするのかを詳細に聞き取り、養殖業者の願いや養殖作業過程の資料化を図った。

わたしは、えんこう川の下流でカキを育てている〇〇です。ぜひ、みなさんもカキようしょく業者になったつもりで、広島わんでカキがたくさんようしょくされているひみつをさがしてみませんか。
 広島わんにはカキいかがが約6000台ありますが、わたしの家には13台あります。ようしょく方法は、出荷の時期をずらすために「イクスようしょく」と「よくせいようしょく」が行われています。（中略）
 さいびよう後満潮時に、江田島わんにある能美町高田のひがた（潮がひいた時に砂浜が出る浅いところ）にあるよくせいだな（カキだな）にさいびよう連をうつし、できるだけ下の方につるします。（後略）

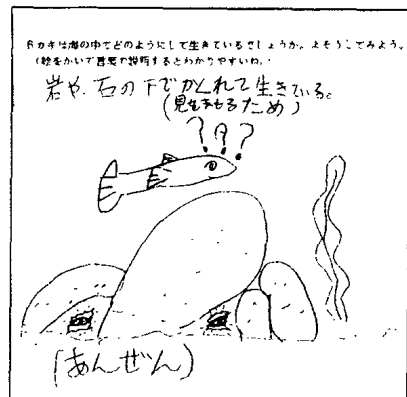
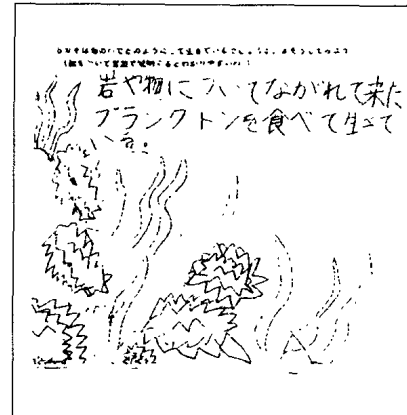
(4) 広島カキについての思いやこだわり調べ（事前のアンケート調査）

① カキの好き嫌いのわけ

カキの好きなわけ（38人中21人好き）	カキの嫌いなわけ（38人中17人嫌い）
中のむにゆむにゆや形がすき。	食べたからおなかのいたくなる。
つるっとしているところ。	生きものでくさく、ぬるぬるしている。
においがいい。	すなが入っている。気持ちが変わる。

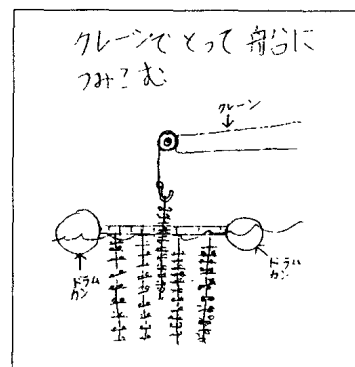
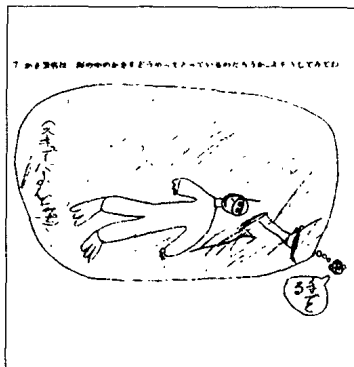
② 海の中でのカキの生き方（自由記述後の分析，複数回答）

動	てきがきたとき，泳いで身をかす。	5人
	岩のかげにかくれたり，砂にもぐったりする。（貝と同じように）	22人
き	岩にくっついている。 岩と色や形がにているのでだたない。	8人
	かきいかだにつるしたほたてがいにくっついている。	6人
食	小魚を食べる。	2人
	プランクトンを食べて生きている。	17人



③ カキのとりかた

くさりですくって石ごとあげる。	18人
魚つりのようにしてとる。	2人
えさの入ったあみを投げ込んでとる。	14人
あわびをとるようにもぐってとる。	15人
クレーン車みたいな船でいかだのか	7人



④ 知っていること

かきは広島の名産。かきいかだでできる。寒い冬ほどおいしい。海のミルクといわれるくらいえいようがある。からつきと水入りパックで売っている。かきで手や足を切ることがある。など。

(5) めあて解決の方法や計画を考える場の設定

① 素朴な問いをもとにした共通の学習問題の設定

当たり前とっていたことの問い直し，子ども同士の思いや意見のずれ，わたしの「はてな」などから，課題を追究できる共通の学習問題を設定する。

◎本当にカキは広島の名産なの？

◎他の県ではカキはとれないのに、広島と仙台ではたくさんとれるのはどうしてだろう。(カキがとれる海ととれない海があるのだろうか。岡山で岡山カキを食べずに広島カキを食べているのは、どうしてかな。)

◎カキは毎日いっぱいとられるのに、いつもいっぱいとれるのはどうしてかな。(どうやってたくさんのカキをとるのかな。いなくなるの。)

② 家庭学習として共通の学習問題について課題別に調べる。

わたしの「はてな」期間
年 組 名前()

学習していること(わたしたちのくらしと広島カキ)

1 はてな ①本当にカキは広島の名産なのか。
えらび ②他の県ではかきはとれないのに、広島と仙台ではかきがとれるのは、どうしてだろう。
③かきは毎日いっぱいとられるのに、いつもいっぱいとれるのは、どうしてだろう。

2調べ方 (何をどうやって、どこで調べたらいいかな。)

どんなことを考えたら、この問題(はてな)がとけるかな。
ヒント どんなしりょうがあったらいいかな。何と何をくらべたらいいかな。よそを調べてたしかめてもいいよ。
: 自分や友達と調べ方、説明の仕方、まとめ方についてよりかえろう。

ほくの「はてな」は、①の本当に、特に広島の名産なのかということだ。
そのためのしりょうをまず、図書館で「カキ」についての生産量の表やグラフがないかを調べてみました。
広島県と他の県をくらべてみて、広島の県がとれたけが多いか、ど産なのかどうかがおかるとおもいます。

ほくがしたことは、カキの生物学や餌にかんする本を調べてみました。それから、広島県立資料館に行き、カキの生態にかんするものが、調べてみました。そこでカキの養殖についてのパンフレットやCD-ROMをもらいました。そこでカキは、年間25万の7割が広島でとれるということになりました。
カキの生物学の本の中にも、昭和55年～60.61年の生産量や出荷量の表が出ていました。

「はてなソ」さかし
11月2日(金) 名前()

おたしはてな? (おや? どうしてかな?)

なぜ カキは広島が名産なのか。

おたしの学習したおたしからだとしようよ。

たぶん、カキが育つかんきょうにできて、いるからだと思います。

調べ方
①どこに育って、だれに食べられるかな。 広島県立資料館へ行って調べた。
②どんなしりょう(パンフレット)があるかな。 広島県立資料館へ行って調べた。
③どうすれば、わかりやすくとれるかな。 2冊のしりょうをくらべてみる。(スケッチしてみる。写真をとる。地図にする。グラフや表にする。)

調べたこと(べつべつ調べたことでもいいよ。)

年間25万の7割が広島でとられている。
1年ものと2年ものと3年ものがある。
広島湾に注ぐ大田川は上流から土砂が運ばれ、浅い海を形成する。そこに、土砂から栄養分を含んだ水を湾内に注ぎ、カキの元となるフナギンを生かす。
鳥の風波からカキいかにをす。いかにだ式で養殖法で1年ものと2年ものと3年ものが多い。カキは、フナギンを食べる。
11月中旬にホタテ貝に餌をふらさる作業を6月7～8月ころ、付着させたカキをいかにへ、グリーンで仕上げられ、回しうされる。

おたしの考え(こんなことが書けるよ。)/や地図(こんなことがよまじきと書けるよ。)

ほくの考えは、カキに大切なしりょうが、広島にはいかにあるからカキは広島の名産物だということをおかした。

③ 共通の学習問題を身近な資料を使って解決できそうな調べ問題作り「何をどうやって調べたら解決できるか。」と見通しがもてるようにする。

◎学習問題「本当にカキは広島の名産なの？」

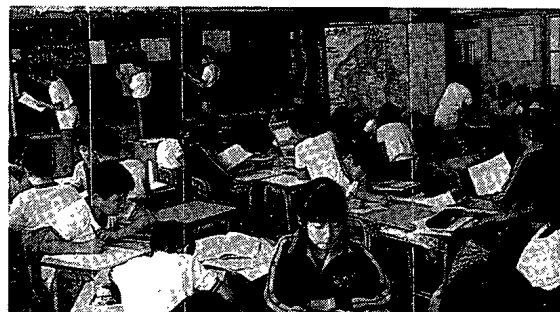
○調べ問題 (めあてを追究するための複数の調べ問題の発見)

- ・カキのふくろを見て、どこでとられているのかを調べる。
- ・カキのとれる量(生産量)をくらべて調べる。
- ・カキのこうこくやチラシで売っている所を調べる。
- ・パンフレットでカキ祭りのある所を調べる。
- ・電話帳でカキを売っている所を調べる。
- ・地図でカキのとれる所を調べる。

④ 課題別の調べ問題の追究

ア 地図帳を活用してどの県がよくとれるのかを全体で調べる。

- ・広島県が一番多いが、宮城県・香川県・岡山県・三重県でもとれる。



イ カキの生さん量を市町村別カキの生さん量の表で課題別に調べる。

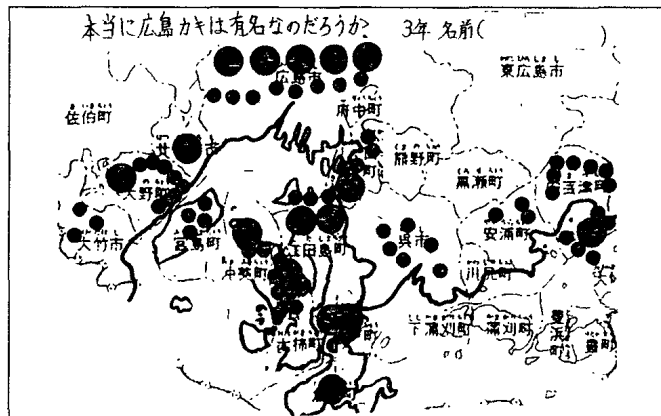
本当に広島はカキが名産なのかな。 3年 名前()

県内の市町村別カキの生産量(平成5年)

市町村名	生産量	市町村名	生産量
広島市	5,993トン	廿日町	3,110トン
海州町	297トン	佐賀町	1,823トン
坂町	1,203トン	神前町	1,274トン
呉市	630トン	倉橋町	1,072トン
廿日市市	1,030トン	江田島町	2,858トン
大野町	1,814トン	大野町	1,562トン
宮島町	414トン	安芸津町	838トン
大竹市	304トン	安船町	314トン
県内全体の生産量	24,655トン		

(広島県水産課提供)

この資料をもとに地図上にシールをはって、どのくらいでさかんなのかを調べよう。
気づきを書こう。



- ・広島わんのちかくの市町村でたくさんカキがとられている。
- ・同じ島にいくつも町があって、島の色々な場所でカキをとっている。
- ・広島県内ではとくに広島市が多い。
- ・海ぞいでもカキがとれない所がある。
- ・ぼくの資料と比べると生産量がへっている。
- ・四国に近づくほどカキは少なくなる。

本当にカキは広島の名産なの?

カキの生産量を調べる。

市町村別カキ生産量の表

①広島県内ではとくに広島市が、多い。
②一産ない所も、200tはある。
③広島市と海州町の2は5,670tはある。
④いたいも、チの位までいっている。
⑤広島市5,993tと、
⑥広島市と廿日市市と県内で24,655tある。
⑦廿日市市と廿日市市は304t。
⑧大竹市に比べて廿日市市の廿日市市が38t。
⑨大竹市に55tと、534tはない。
⑩広島市に24,655tと、534tは本島に
はない。
⑪同じ島に15つ町があるのは、いかに場所が
カキとっている。
⑫この資料をもとに、なにかいふことが、ない。
⑬海ぞいでも、カキがとれるのに、川に
だけカキがとれない。
⑭似たような、島はない。
⑮似たような、島で、カキがとれる。
⑯カキは、県内がとくに多い。
⑰カキの生産量は、多い。少ない。少ない。少ない。
⑱カキは、広島市以外でも、多い。200tは、
いっている。

ウ カキを売っている所を電話帳(タウンページ)で課題別に調べる。

- ・広島市には店の数はだいたい60軒とあつとうてきに多い。
- ・広島市でも安芸区が一番多く、ふなこしというところがとくに多い。
- ・安芸区はふなこし、南区はにはほ、西区は草津と場所がきまっている。
- ・廿日市市はじごぜん(地名)ばかりだ。
- ・カキの店は海や川の近くが多い。

エ カキの売っている所がだした広告で課題別に調べる。

- ・カキのこうこくに広島名産と書いていることが多い。
- ・全国地方送りますと書いてあるからカキは広島の名産じゃないのか。
- ・生かきが多いから、広島市で一番多くカキがとれると思う。
- ・こうこくのじゅうしょと電話ばんごうをみると広島市が多い。
- ・生がきとからつきかきの2しゆるいがある。
- ・飛行機マークがあるので、カキはひこうきで各地におくられる。
- ・48年もやっているから、けっこう前からやっている。

した。これらの活動は、広島湾に浮かぶたくさんのカキ筏の動きに着目できると同時に海の仕事への親しみと努力のすばらしさを実感できると考えた。



3 仮説を検証するための視点と児童の感想

(1) 検証の視点（人間の営みに迫る教材開発の有効性）

身近なカキ養殖業者の営みについて教材を開発したことは、児童が自分とのかかわりとしてカキ養殖をみつめたり、人間の生きざまに触れたりするうえで有効であったか。

- ◇ カキなんかどんどこでできてもいい。わたしにはかんけないことだと思っていました。けれど、カキをようしょくする人は、食べてもらう人に新せんで、おいしくて元気なカキを食べてもらうために、すいか連を作ったり、遠くにあるカキだなにうつしかえたりするから、たいへんだなあということがわかりました。カキをみるたびにおじさんたちのことがうかんできます。
- ◇ わたしはさいしょカキがきらいでした。1度一口食べたことがありました。その時は「カキっておいしくないな。にがいな。」と思いました。でも、カキのべんきょうをすればするほど、ふしぎと食べてみようかなという勇気がでてきました。
- ◇ わたしの住んでいる広島の人がカキをたくさん育てているのでこれからは味わって食べようと思いました。
- ◇ カキって人がつくらないと思っていたけれど、本当は長い年月をかけて育てられて、スーパーとかにおくられてくるからたいへんだと思いました。
- ◇ しょうらいカキをとるりょうしみたいな仕事してみたいです。

(2) 検証の視点（見通しのもてる調べ問題作りの有効性）

解決への見通しのもてる調べ問題作りの場を設定することは、児童が自分とのかかわりとして主体的に社会に働きかけるうえで効果的であったか。

- ◇どこにいて、だれに、何をきいて、どんな資料やパンフレットがいるのかがわかってきた。
- ◇わたしはカキうち場のおばさんに話を聞くだけではものたりないので、図書館に行っているいろいろな本で調べたりしました。はじめに南区文化センターに行き、その次には、市立図書館に行きました。調べていくたびに

- なぜか、たくさんの本が見つかり、いろいろなことがわかりました。
- ◇お父さんといっしょにきょうど資料館に行って、ビデオをみたり、資料をみたりしてカキについてよくわかりました。
 - ◇これからは、何げなく食べている物を、少しでもふしぎに思ったら、調べてみたいと思いました。

(3) 検証の視点（人間の営みに迫る追体験的な活動の有効性）

実物のカキを提示したり、カキの養殖作業を追体験する場を設定したことは、自分なりの気づきや感じ取りを豊かにする上で有効であったか。

- ◇ はじめカキのにおいは、くさくていやだなあと感じたけど、やっているうちに(通し替え作業をしているうちに)カキ屋さんになった気分になった。
- ◇ 作業を4人でやっても大変だったから、一人でやったら時間がかかって手がだるくなるだろう。たくさんの連をつくるのは大変だろうなあ。
- ◇ すいか連を作りました。ホタテ貝の間にぼうを入れていたら、フジツボがありました。小さいのと中くらいなのがありました。ホタテ貝をワイヤーにつるし終わったら、カキの赤ちゃんを見つけました。表とうらのへりに、ぽちんと黒色と茶色ととうめいのくらげみたいについていました。こんなものがカキになるとは思えませんでした。

4 考察と課題

子どもたちは、自分なりの思いやイメージを核にすえて、共通の学習問題を作り、身近な資料を使って解決できそうな調べ問題を作って課題別に追究した。また、養殖業者の作業課程を具体的に調べたり、作業の一部を追体験したりした。子どもたちはカキを単なる物として見るのではなく、カキにかかわる様々な人の願いや動きを感じ取り、自分の生活との結び付きに気づくことができた。

しかし、友達の追究過程から情報を得るに留まり、受け身的に追究する子どもがいることも見過ごすことはできない。共通の学習問題そのものの質の問題なのか、調べ問題を設定することは発達段階から考えて難しいのか、追究する楽しさを実感できる場が少なかったのか、など様々な要因が考えられる。

教師が意図した教材が、その子にとって生きる力となる財産としての学習材に転換できるように支援のありかたを見つめ直していきたい。

(松田 芳明)